令和８年１０月２９日
農推第１３５３－７号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

目次	ページ
発生に注意（11月）【野菜類：ハスモンヨトウ、果樹類：果樹カメムシ類】	1
病害虫の発生予報（11月）	2
野菜【ねぎ、きゅうり、あぶらな科野菜、野菜類】	3～7

発生に注意（11月）

野菜類：ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

◆ あぶらな科野菜、きく科野菜等多くの作物を加害する。

防除のポイント

◆ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を行う。また、卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
◆ 発生を認めたら、**アニキ乳剤**（キャベツ、ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類、非結球レタスなど）、**プレオフロアブル**（キャベツ、ブロッコリー、しゅんぎく、非結球レタスなど）、**ヨーバルフロアブル**（キャベツ、ブロッコリー、非結球レタスなど）等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

果樹類：果樹カメムシ類



ツヤアオカメムシ

特徴

◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。
◆ ほ場により飛来量が大きく異なる可能性があるので、ほ場内を見まわり発生及び被害状況を確認する。

防除のポイント

◆ ほ場全体を目合い4mm以下のネットで覆い、侵入を防止する。
◆ 発生を認めたら、カメムシ類に適用のある**スタークル/アルバリン顆粒水溶剤**（かんきつ、かきなど）、**アディオン乳剤**（かんきつ、かきなど）等を散布する。
◆ 薄暮期から夜間を中心に活動するため、夕方に薬剤散布を行うと効果的である。
◆ スギ林やヒノキ林の隣接ほ場では、被害が多くなる傾向があることから特に飛来状況に留意する。

次回の情報は11月下旬にお知らせします。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

病害虫の発生予報（11月）

作物名	病害虫名	予想発生量（11月）
ねぎ	ネギアザミウマ（えそ条斑病）	平年並
きゅうり	べと病	平年並～**やや多い**
	うどんこ病	平年並～**やや多い**
	褐斑病	平年並
	アザミウマ類 （ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病）	やや少ない～平年並
	コナジラミ類 （タバココナジラミ：退緑黄化病）	平年並～**やや多い**
あぶらな科野菜	菌核病	平年並
	コナガ	やや少ない～平年並
野菜類	シロイチモジヨトウ	平年並～**やや多い**
	ハスモンヨトウ	**やや多い**
	オオタバコガ	平年並～**やや多い**
	コナジラミ類	平年並～**やや多い**
	アブラムシ類	やや少ない～平年並
果樹類	**果樹カメムシ類**	**やや多い**

※予想発生量は、平年値（概ね過去10年の平均）に比べて、「多い・やや多い・並・やや少ない・少ない」の5段階で示しています。
※ねぎは令和5年度より調査開始のため、過去2年のデータを平年値としています。
※予報の根拠は下記ホームページ内の「病害虫発生予察情報」の該当月をご確認ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜

ねぎ

ネギアザミウマ（えそ条斑病）



えそ条斑病の発病葉と
ネギアザミウマ成虫

特徴

◆ ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。
◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するIYSV（アイリスイエロースポットウイルス）によるウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が拡大して融合し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するネギアザミウマの防除を徹底するとともに、発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
◆ IYSVは一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、**グレーシア乳剤（アザミウマ類）、ディアナSC（アザミウマ類）**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

きゅうり

べと病



被害葉＊



葉裏から見た病斑

特徴

◆ 気温20～24℃で発生が多い。
◆ 下位葉に葉脈で囲まれた黄色角形の病斑ができ、上位葉へ拡大する。

防除のポイント

◆ 排水を良好にし、過湿を避ける。
◆ 施設栽培では換気に注意し、結露を避ける。
◆ 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
◆ 肥料切れしないように、肥培管理に注意する。
◆ 発生が見込まれる時期に、**ジマンダイセン水和剤／ペンコゼブ水和剤、ランマンフロアブル**等を、発生を認めたら、**アミスター20フロアブル、ベトファイター顆粒水和剤**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

うどんこ病



被害葉＊

特徴

◆ 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。
◆ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。
◆ はじめ株の下位葉に小麦粉をかけたような病斑ができる。しだいに上の葉に広がり、葉面全体が白色の粉を振りかけたようになる。

防除のポイント

◆ 施設内の換気を良好にする。
◆ 被害葉を除去し、通風を良くする。
◆ 発生が見込まれる時期に、**ベルクート水和剤、フルピカフロアブル**等を、発生を認めたら、**トリフミン水和剤、ケンジャフロアブル**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

褐斑病



被害葉

特徴

◆ 高温、多湿の施設栽培で発生が多い。
◆ 天井フィルムからの結露水のボタ落ちで発病が助長される。
◆ はじめ葉に円形・褐色の小型病斑を生じ、やがて灰褐色の５～10mm程度の不規則な病斑になる。多湿条件では病斑上に黒褐色のカビが生える。

防除のポイント

◆ 施設内の換気を良好にし、多湿にならないよう注意する。
◆ 被害葉・老化葉は早めに除去する。
◆ 発生が見込まれる時期に、**ジマンダイセン水和剤／ペンコゼブ水和剤、プロポーズ顆粒水和剤**等を、発生を認めたら、**パレード20フロアブル、ニマイバー水和剤**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html)
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病）



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマの発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ ミナミキイロアザミウマがMYSV（メロン黄化えそウイルス）を伝搬し、キュウリ黄化えそ病が発生する。
- ◆ MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。



黄化えそ病発病葉※

防除のポイント

- ◆ 施設の開口部を目合い0.8mm以下の赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ アザミウマ類の発生を認めたら、**アファーム乳剤**、**グレーシア乳剤**（うり類（未成熟））等を散布する。
- ◆ 黄化えそ病の発病株はほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- ◆ 栽培終了後は、全株を地際から切断または抜根し、施設内を除草したのち、2週間以上密閉して、アザミウマ類を餓死させる。

あぶらな科野菜（キャベツ等）

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

菌核病



キャベツの被害株

特徴

- ◆ 暖冬・多雨時に発生が多い。
- ◆ 発生初期は、キャベツでは地面に近い下葉の基部に水浸状の病斑ができ、やがて結球部にも拡大する。
- ◆ 病気が進むとネズミの糞のような黒い菌核ができ、土中に残って伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ 菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は、見つけ次第菌核を落とさないようほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生が予想される時期に、**セイビアーフロアブル20**（キャベツ、ブロッコリーなど）、発生が見られたら**ベンレート水和剤**（キャベツ、ブロッコリーなど）等を散布する。
- ◆ 多発ほ場では、菌核病が発生しやすいあぶらな科野菜やレタスなどを連作しない。
- ◆ 水稲との輪作は防除効果がある。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

コナガ


幼虫※


成虫※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 発生初期に防除を行う。
- ◆ 発生を認めたら、**グレーシア乳剤**（結球あぶらな科葉菜類、非結球あぶらな科葉菜類など）、**アファーム乳剤**（キャベツ、こまつなど）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

野菜類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

シロイチモジヨトウ


幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、あぶらな科野菜、まめ類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ ねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、卵塊の除去及び集団でいる発生初期（若齢幼虫期）に防除を行う。
- ◆ 発生を認めたら、**ディアナSC**（ねぎ、ブロッコリーなど）、**コテツフロアブル**（ねぎ、キャベツ、ブロッコリー）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

病害虫発生予察注意報第3号「シロイチモジヨトウ」（令和8年6月30日発出）もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2606_r8cyuihou03_siroichimojiyoto.pdf

オオタバコガ


幼虫

特徴

- ◆ キャベツでは結球部に入り込むこともあり、ヨトウムシ類のように集団では加害しないため、見つけにくい。
- ◆ 食害痕のまわりに虫のフンが確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。また、摘除した茎葉等に、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外へ持ち出し、処分する。
- ◆ 結球部の食入孔の中にいると薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、**アニキ乳剤**（キャベツ、はくさい、非結球レタスなど）、**プレバソンフロアブル5**（キャベツ、はくさい、ブロッコリー、非結球レタスなど）等を散布する。

病害虫発生予察注意報第2号「オオタバコガ」（令和8年6月30日発出）もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2606_r8cyuihou02_otabakoga.pdf

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

コナジラミ類



コナジラミ類が
発生した葉＊



タバココナジラミ
成虫※

特徴

- ◆ 現在、府内のなすやきゅうり、トマトなどで発生が見られるのは、ほとんどがタバココナジラミである。
- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ 多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆ タバココナジラミはウイルス（CCYV※1、TYLCV※2、ToCV※3）を伝搬する。

※1　キュウリ退緑黄化病の病原ウイルス
※2　トマト黄化葉巻病の病原ウイルス
※3　トマト黄化病の病原ウイルス



キュウリ退緑黄化病
発病株※



トマト黄化葉巻病
発病株

防除のポイント

- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張し、成虫の侵入を阻止する。
- ◆ 施設周辺及び内部の除草を徹底する。
- ◆ ウイルス病の感染株は、施設外へ持ち出し処分する。
- ◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ **ベストガード水溶剤**（なす、トマト、ミニトマト、きゅうりなど）、**アグリメック**（なす、トマト、きゅうりなど）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

- ◆ 施設栽培では栽培終了後は、全株を地際から切断または抜根し、施設内を除草したのち、2週間以上密閉して、タバココナジラミを餓死させる。

病害虫発生予察注意報第6号「コナジラミ類」（令和8年9月9日発出）もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2609 r8cyuihou06 konajirami.pdf

アブラムシ類



ニセダイコンアブラムシ

特徴

- ◆ 葉裏に寄生するため、発生初期に気づきにくい。
- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。
- ◆ 各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**（キャベツ、しゅんぎく、非結球レタスなど）、**トランスフォームフロアブル**（ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類、非結球レタスなど）、**ウララDF**（キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類、非結球レタス、しゅんぎく、など）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。